京都・長岡京跡(3)

1 所在地　京都市伏見区羽束師菱川町
2 調査期間　一九八五年（昭60）一一月～一九八六年三月
3 発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所
4 調査担当者　長宗繁一・鈴木広司・吉崎　伸
5 遺跡の種類　都城跡
6 遺跡の年代　八世紀末
7 遺跡及び木簡出土地の概要

この羽束師菱川町一帯は長岡京左京四条二坊から四条四坊に推定されている所である。調査は京都市の街路建設事業に伴うもので、昭和五五年度から現在まで継続して実施している。

（京都西南部）

これまでの調査では長岡京造営期の掘立柱建物、柵、井戸、条坊に関係する溝等を検出している。特に建物、井戸はほぼ一定の間隔をおいて検出されており、長岡京の宅地割を考える上での好資料を提供している。

また、この調査では弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡や溝、奈良時代の水田跡や条里に関する溝等、長岡京造営前の遺構が検出されている。さらに、最近では平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物や井戸等、長岡京廃絶後の遺構も数多く検出されつつあり、当地が京都市内でも屈指の複合遺跡であることが明らかとなってきた。

昭和六〇年度は左京四条二坊十五町及び隣接する四条三坊二町の二ヵ所で調査を実施した。四条二坊十五町では掘立柱建物、井戸、湿地状の堆積層を検出した。木簡はいずれもこの湿地状の堆積層から出土しており、他に多量の土器類、瓦類、木製品が出土している。土器には、「山」「品」「秦」等の墨書をしたものがある。

四条三坊二町では、掘立柱建物、井戸、石敷遺構、カマド状遺構等を検出した。ここは、平城天皇即位にあたって謀反の疑いをうけた伊予親王が幽閉されたと伝えられる川原寺の推定地であり、これらの遺構は、川原寺の大衆院関係の遺構であると考えられる。遺物は調査区全域に広がる長岡京期から平安時代前期の包含層から多量の土器類、瓦類が出土している。土器には「丁」「王」「品」「東」「南杯」等の墨書をしたものがある。また、人面墨書土器、土馬、鳥形土製品、斎串等祭祀に関わる遺物が多く出土している。その他、経典の一部とみられる漆紙文書の断簡も出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1)

・□富富　□

・　□□□□□□□
　□□　(179)×23×4　081

(2)

・×卌五　四九卌六　三九廿七　二九十八」

・　□□　〔二八十六カ〕□□□□　七〻卌九　」

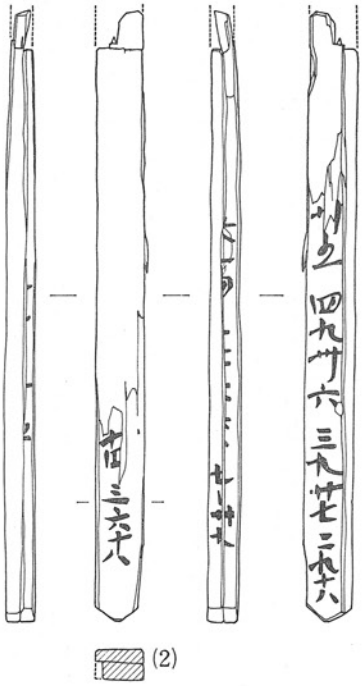
・　×廿四　三六十八」

・　□□　(258)×20×15　019

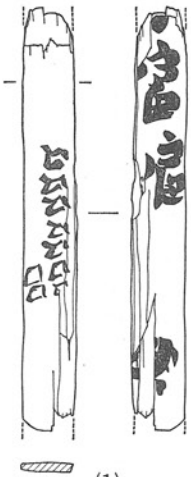
(1)は薄い板材の表裏に墨書をしたもので内容から呪符木簡であると考えられる。

(2)は厚手の板材の表裏及び両側面に九九を墨書したもので、表裏に二分された状態で出土した。上半は破損して不明であるが下端部は圭頭状に加工されている。墨書は表面に九の段、左側面下部に八の段と七の段、裏面に六の段の一部が認められ、これらの状況から木簡の四面には、九の段から二の段までの三六組の九九が書かれていたと考えられる。九九の各段及び各組の順序は現在のものとは逆である。

（吉崎　伸）



(2)



(1)

0　10cm